昆虫類　＜トンボ目　トンボ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠA類　（国：絶滅危惧ⅠB類）
INSECTA　＜ODONATA　LIBELLULIDAE＞　　AICHI：CR　（JAPAN：EN）

オオキトンボ　*Sympetrum uniforme* (Selys)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は100%、現存数は0であり、絶滅危惧ⅠA類に相当する。

県内に確実な生息地は存在しない。

♂．日進市赤池, 1985年10月13日，清水典之 撮影

【形　態】

体色および翅全体が淡い橙黄色をした邦産アカネ属の最大種であり、和名も大きな黄色のトンボという意味である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の平野部から丘陵地にある 15 市町村（旧市町村単位）で記録されている。

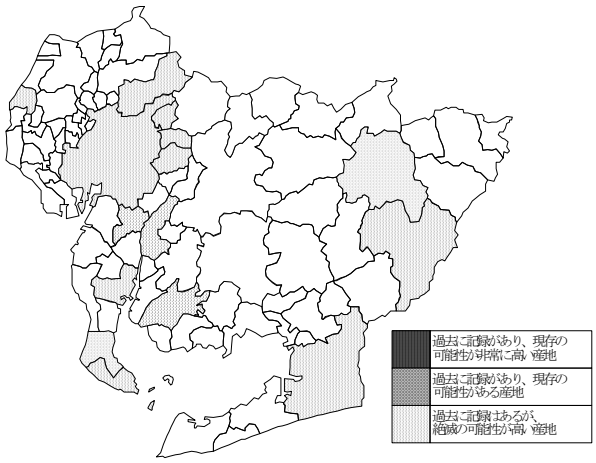
【国内の分布】

本州東北部から九州北部にかけて分布し、対馬でも記録されている。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、平地から丘陵地にかけての抽水植物や汀線付近の草本が豊富で、かつ開放的な大きめの池沼で見られる。未熟成虫は、かなり移動することもあり、発生地から離れた山間部での採集例も報告されている。幼虫は、水域の浅い泥底で得られている。

7月頃から羽化し、10月頃に水域へ戻ってきて生殖行動を行なう。11月でもかなりの個体が見られることが多い。1年1化である。

【現在の生息状況／減少の要因】

尾張では日進市の機織池で1988年まで恒常的に発生していたが、その後姿を見なくなった。西三河では1970年代まで刈谷市などで発生していたが、1980年代には絶滅した。東三河では1993年の設楽町での記録が県内における直近の記録でもある。ただし同地には本種の発生するような池沼はなく、飛来個体と推測される。

成虫は遠浅でヨシなどの抽水植物と浮葉植物のある池沼を好む傾向にあるが、わずかな環境変化にも敏感で、護岸工事等がなされると、すぐに姿を消すことが多い。

【保全上の留意点】

1）成虫の産卵域となる浮葉植物等の植生のある環境の確保
2）成虫の休息域となる水域周辺の草地の確保
3）幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止

【特記事項】

東海地方全体でも2000年以降は確認されていないようで、壊滅状態にある。

本種は日本海に近い地域で希に成虫が発見されることがあり、大陸からの季節風に乗った飛来ではないかと推測されている。

（吉田雅澄）